YACHIYO

社会・環境報告書 2019

八千代工業株式会社





人間尊重
顧客第一

集計対象期間

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）

対象事業所

国内事業所

八千代工業

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）
鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）
亀山事業所（三重県亀山市）
栃木研究所（栃木県さくら市）
埼玉研究所（埼玉県狭山市）

国内子会社

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）
株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町、熊本県合志市）
株式会社合志テック（熊本県合志市）

海外事業所

八千代工業 海外子会社

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）
エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）
ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ（メキシコ）
ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）
八千代工業（中山）有限公司（中国）
八千代工業（武漢）有限公司（中国）
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）
ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

合志技研工業 海外子会社

サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

対象としていない子会社および関連会社

- 対象期間における事業活動を行っていません。
  ラグナ アソシエ リアルティ インコーポレーテッド（フィリピン）
- 事業活動を現地賃貸事務所で行っており、含めていません。
  ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー（ドイツ）

発行サイクル

年1回（前回発行：2018年9月）

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」および「GRIスタンダード（サステナビリティ報告ガイドライン）」

情報公開

ヤチヨは、企業ウェブサイトを通じてCSRへの取り組みを公開し、本報告書を掲載しています。

八千代工業ウェブサイト「CSRへの取り組み」
http://www.yachiyo-ind.co.jp/profile/csr/





わたしたちは、世界的視野に立ち、
お客様の満足のために、
卓越した技術と特長ある製品を供給する。

CONTENTS

はじめに

トップメッセージ …… 3
会社概要 …… 5
沿革、事業内容 …… 6
ヤチヨ企業理念 …… 7
中期の事業の方向性 …… 8



社会性報告

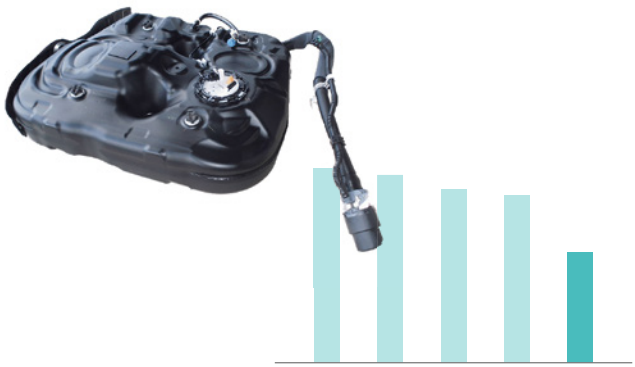
CSRマネジメント …… 9
品質・調達 …… 10
株主・投資家コミュニケーション …… 11
人材 …… 12
地域社会 …… 15





環境報告

環境マネジメント …… 16
環境保全への取り組み …… 18
地域セグメントごとの環境データ推移 …… 21
事業所ごとのエネルギーと廃棄物量 …… 23





企業理念を実践しながら、世界中の人々に価値をお届けする

私たちヤチヨグループは、『人間尊重』と『顧客第一』を基本理念とするヤチヨ企業理念の実践を通じて、“社会からその存在を認められ、期待される企業”を目指し、事業を運営しています。

私たちがなすべきことは、ヤチヨグループが持つ強みを生かした技術と製品で、世の中のお役に立ち、お客さまに満足していただき、そして世界中の人々を笑顔にするものづくりを追求することです。

これに加えて、中期事業計画における重点施策の一つに、『企業価値向上に向けたサステナビリティ展開』を掲げており、ヤチヨグループのすべての部門、すべての働く人が、それぞれの役割と責任に照らして自ら行動しています。

『軽量化技術』を最大限に活かし、自動車メーカーへ独自提案

当社は、CASE※1と呼ばれる技術の実用化によるクルマの進化を念頭に、これまで培ってきた製品・技術を活かした仕込みを進めています。

燃料タンクについては、特にプラグインハイブリッド車（PHEV）の普及に向けて、圧力変動に耐える強度と、樹脂製ならではの軽さとを両立する、当社独自の製品開発を進めています。

また、サンルーフにおいては、自動運転によって高まる快適な車内空間へのニーズに対し、より薄くて軽く、さらなる開放感と高いデザイン性を両立させる開発を進めています。

さらに、クルマの電動化が進むにつれて大きくなる重量増の課題に対し、当社がこれまで培ってきた樹脂の成形および塗装による軽量化技術で寄与するとともに、企画・開発を伴う樹脂コンポーネント製品に向けたものづくり進化を進めてまいります。

世界的な視野で、社会のお役に立ち、皆さまと共に歩む

こうした考えや取り組みの背景にあるのは、株主の皆さま、お客さま、取引先さま、地域社会の皆さま、従業員とそのご家族など、すべてのステークホルダーの皆さまとの共生です。

いま世界的に注目が集まるSDGsにあるように、世界は共通の社会課題を背負っています。私たちヤチヨグループは、この諸課題の解決に寄与しながら、“持続可能な社会の実現”に向けて、皆さまと共に歩んでまいります。

これまで、環境への取り組みを中心に、取り組み自体と報告内容をより充実させながら、環境報告書としてお伝えしてきました。持続可能な社会の実現に向けて、とりわけCSR※2の観点を大切にしており、今回、当社の社会側面における多面的な取り組みをお伝えするために、『社会・環境報告書』として発行することとしました。

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



●SDGs：
Sustainable Development Goals

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた17の目標

※1 CASE … Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared（シェアリング）、Electric（電動化）の頭文字
※2 CSR … Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）

会社概要

社　名	八千代工業株式会社
英文社名	Yachiyo Industry Co., Ltd.
設　立	1953年8月27日
代表者	山口 次郎
資本金	36億8,560万円
従業員数	単独：875名 連結：7,237名（2019年3月31日現在）
本　社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地
電　話	04-2955-1211（代表）
証券取引所	東京証券取引所JASDAQスタンダード上場



グローバルネットワーク

国内

1
本社
柏原工場
鈴鹿工場
鈴鹿工場 亀山事業所
埼玉研究所
栃木研究所
合志技研工業株式会社
株式会社ウエムラテック
株式会社合志テック

海外

アメリカ
2 ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド
エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド
3 ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー

メキシコ
4 ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ

ブラジル
5 ヤチヨド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ

中国
6 八千代工業（中山）有限公司
7 八千代工業（武漢）有限公司

タイ
8 サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド
サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド

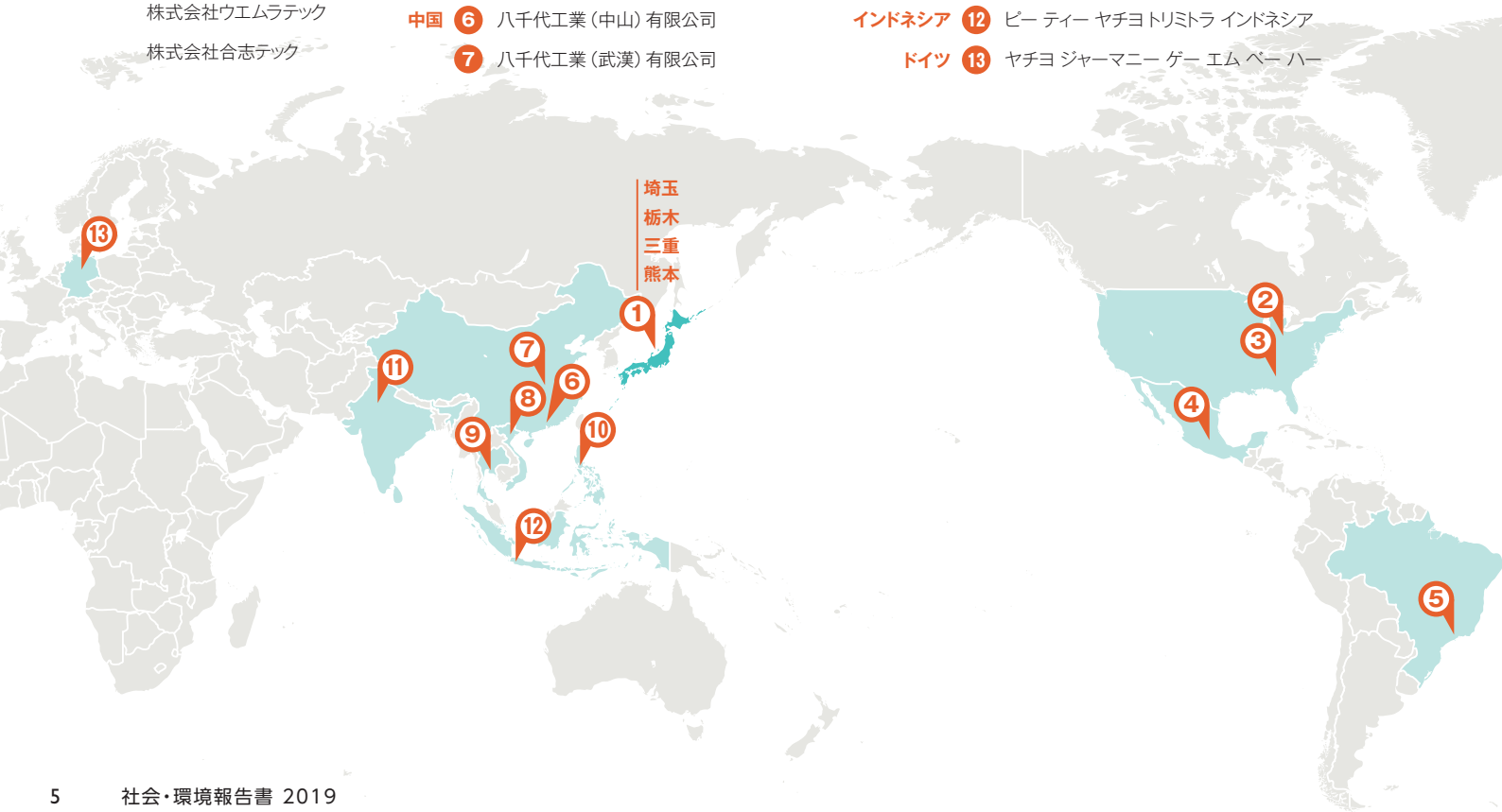
ベトナム
9 ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド

フィリピン
10 ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド

インド
11 ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド

インドネシア
12 ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア

ドイツ
13 ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー



沿革

1953年	創業者 大竹榮一氏が東京都板橋区に八千代塗装株式会社を設立
	Hondaから二輪車部品の外注工場の指定を受ける
1960年	三重県鈴鹿市に鈴鹿工場を設立
1968年	八千代工業株式会社に商号を変更
1972年	埼玉県狭山市に柏原工場を設立
	Honda軽四輪乗用車「ライフ ステップバン」の受託生産を開始 ※2018年度で事業終了
1977年	自動車部品「**鉄製燃料タンク**」の生産を開始
1982年	樹脂成形部品の生産を開始
1986年	栃木県さくら市に開発拠点を開設
	自動車部品「**サンルーフ**」の生産を開始
1989年	ヤチヨ初の海外拠点をカナダに設立
1998年	三重県亀山市に、補修パーツの一貫加工・出荷工場を設立
1999年	日本で初めて４種６層「**樹脂製燃料タンク**」の量産を開始
2004年	大阪証券取引所（現 東京証券取引所）JASDAQスタンダードに株式上場
2012年	運転補助装置の適合開発・架装を開始
	埼玉県狭山市に次世代技術の開発拠点を開設
2014年	CFRP※製品「**陸上競技用車いす**」の生産を開始
2017年	「**Yachiyo Custom Parts**」の生産・一般販売を開始

※CFRP…　炭素繊維強化プラスチック



Honda
ライフ ステップバン



初搭載車
Honda アコード



初搭載車
Honda プレリュード



初搭載車
Honda インサイト

事業内容

樹脂製燃料タンク

クルマの燃料を貯蔵する重要保安部品です。事故時などの安全設計を第一に開発しています。

また、近年厳しさを増す環境規制への対応や車内空間を広くするための薄型化や形状設計の工夫などの技術力を駆使し、グローバルに供給しています。

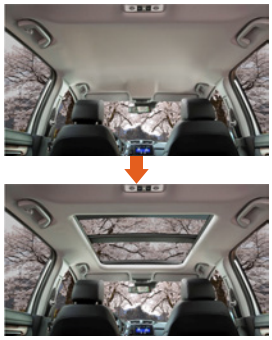




サンルーフ

クルマの屋根に開口部を設けることで、開放感、爽快感を生み出します。

当社内で基礎研究から量産までの一貫体制を整えており、開口面積あたりの重量において、世界トップクラスの軽量を実現する当社製のパノラマサンルーフは、快適な車内空間に寄与しています。



樹脂・塗装製品

樹脂製の内外装部品を製造しています。高い外観品質を実現する、創業から培ってきた塗装技術によって、車内空間やボディーと調和した製品を生み出しています。



Honda S660向けのドレスアップパーツを製造、一般販売

補修パーツ

旧型車を修理する場合などに交換で必要となる補修用の樹脂および板金部品を、生産から梱包まで一貫して手がけています。



板金補修パーツ

CFRP製品

先端素材のCFRPを用いた製品開発を行っています。



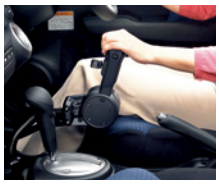
陸上競技用車いす



Honda S660向け
CFRP ROOFを製造、一般販売

運転補助装置

身体に不自由を感じる方がクルマを運転をする装置の適合開発から製造を担っています。



Honda･テックマチックシステム

二輪車用部品

子会社である合志技研工業グループで、排気部品、骨格部品を製造しています。



マフラー

ヤチヨ企業理念

ヤチヨは製造メーカーとして、社会の求める技術や製品を供給するヤチヨの本業を誠実に実行していきます。

ヤチヨは真に「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるために、ヤチヨ企業理念を十分に理解した上で、変化していく社会の要求に応えていきます。

基本理念

人　間　尊　重
顧　客　第　一

社　是

わたしたちは、世界的視野に立ち、
お客様の満足のために、
卓越した技術と特長ある製品を供給する。

行動指針

- **常に夢をもち若さを保つこと。**
- **感性を磨き技を鍛えること。**
- **安全で明るく調和のとれた環境を作ること。**
- **時間と独創性を重んじること。**
- **自らの目標に向かって粘り強く努力すること。**

ヤチヨグループが目指す目標

ヤチヨグループはヤチヨ企業理念の実践を通じて、
「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」

中期の事業の方向性

当社グループは、2020年Vision『卓越した技術と特長ある製品で真のワールドワイドプレイヤーになる』の達成に向けて、18-20中期全社方針を掲げ、『グローバルでトップの技術・製品の競争力を実現する』ことを目指して事業運営してきました。(❶)

これを下支えする考え方としては、ヤチヨ企業理念を全ての根幹とし、お客さまからの信頼を継続的に得るための『品質と納入』は絶対に欠かせません。また、これらを生み出す従業員の安全をあらためて重視しています。

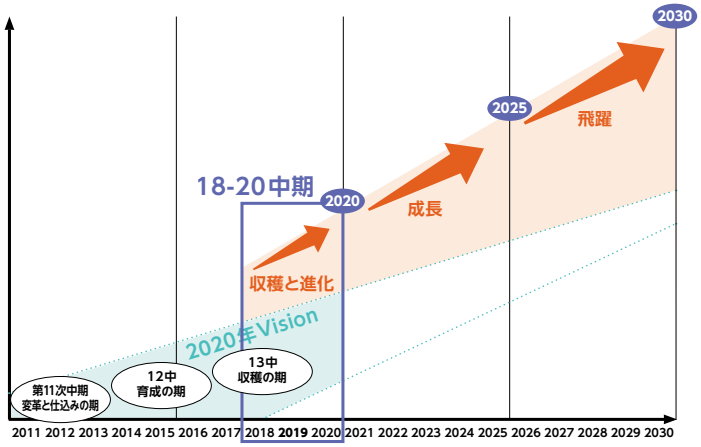
その上で、『「技術・製品」で、世界一もしくは世界初を実現する』、『それぞれの「事業」を自主自立させる』、『働き方を変えて、「現場力」を飛躍的に向上させる』という3点を、『Human Network』で人をつなぎながら推し進めます。このようなフレームワークの下、5つの重点施策を定めて取り組んでいます。(❷)

将来的には、現在主力とする燃料タンクおよびサンルーフ事業の需要が2025年にピークを迎えると見立て、従来得意としてきた“樹脂成形および塗装”の領域が第3の柱となるよう拡大を目指しており、子会社である合志技研工業グループの二輪車向けの排気および骨格部品と合わせ、2030年に向けた企業としての持続的成長を描いています。(❸)

ヤチヨ2020Vision

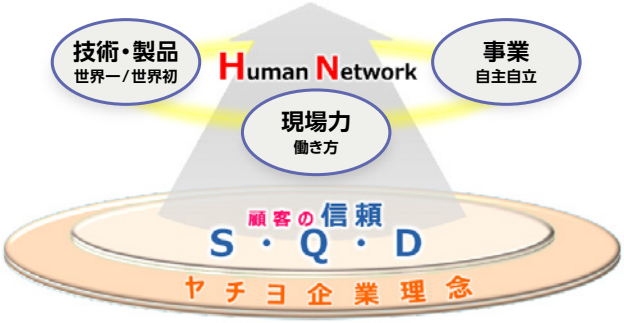
卓越した技術と特長ある製品で真のワールドワイドプレイヤーになる

❶ 18-20中期全社方針の位置づけ



❷ 18-20中期全社方針のフレームワーク

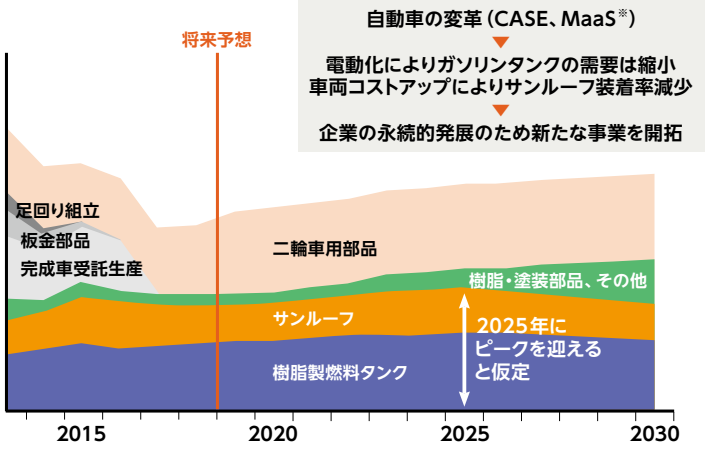
グローバルでトップの技術・製品の競争力を実現する



重点施策

1. ニーズを先読みしたものづくり進化
2. グローバルオペレーションの確立と実行
3. 品質保証体質の飛躍的向上
4. 将来を担う人材の先行育成・最適配置
5. 企業価値向上に向けたサステナビリティ展開

❸ 2030年に向けた事業構造予測(目標)



※MaaS…Mobility as a Service(サービスとしての移動)

CSR方針

近年、気候変動や生物多様性の損失、貧困や格差、紛争や人権侵害など、環境、社会問題が多様化する中、企業には「環境」「社会」「経済」の視点から社会的課題の解決に積極的に取り組むことが求められています。

ヤチヨが行う事業そのものはもちろん、普段から取り組んでいる省エネルギーや節水、安全・品質活動、従業員への福利厚生など、すべての行動がCSR活動として社会的課題と密接につながっています。

このような潮流の中、これからもヤチヨは企業理念の共有と実践を通じて、企業価値向上に向けた事業を展開することで、「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指します。

ステークホルダーエンゲージメント

ヤチヨは、グローバル共通の「ヤチヨ企業理念」に基づき、企業は社会的な存在であることを前提に自社の利益や経済合理性を追求するだけでなく、ステークホルダー全体の利益を考えて事業に取り組んでいます。



コーポレート・ガバナンス

当社は、「人間尊重」「顧客第一」という基本理念に立脚し、株主や投資家の皆さまをはじめ、お客さま、社会からの信頼をより高め、「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要課題の一つと認識し、その取り組みを行っています。

企業倫理改善提案窓口

現場の問題は、部門におけるコミュニケーションの中で改善することが基本です。しかし実際には、部門だけでは改善できない問題もあります。

「企業倫理改善提案窓口」では、企業倫理に関する問題についての提案を従業員から直接受けています。

窓口がより効果的に機能するよう、役員で構成される「企業倫理委員会」が提案者保護を含め、部門では対応できない重要案件の対応方針の決定、該当部門への改善指示など、窓口の適切な運営の監督を行っています。

ヤチヨ　企業倫理改善提案窓口
ヤチヨ　セクハラ相談窓口
Honda　企業倫理改善提案窓口
Honda　社外窓口（弁護士事務所）

提案者の保護

- 提案者が実名の公表を望まない場合、窓口以外に氏名の公表はしません。
- 窓口は、提案者が提案したことによって職務上の不利益を被らないよう必要な措置を講じます。

品質・調達

品質目標

ヤチヨでは、「品質」と「納期」を最優先に、品質方針を策定し、品質保証の諸活動に取り組んでいます。ヤチヨ全社品質方針のもと、品質保証体系の構築と現場での実践を徹底しています。

品質方針

「顧客第一」を徹底し、私たちの製品を購入・使用していただく全てのお客さまの満足を得るために、全員参加で、グローバルに通用する信頼性の高い製品を提供します。

行動指針

お客さま要求事項への適合を図り、

1. 品質方針を達成するため、品質目標を設定し、推進する。
2. 開発からサービスに至る全工程で品質マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を図る。
3. 品質管理のルールを守り、安定した品質の製品を提供する。
4. お客さまおよび市場の要求品質を反映した製品設計仕様で、絶えず商品性向上を図る。
5. 独創的で信頼性の高い製品を提供するために、常に技術および技能の向上を図る。
6. サプライヤーとの共創で、製品品質の維持向上を図り、高品質の製品を提供する。

これらの品質管理活動が、現場視点で、常に検証されること。

購買理念と購買原則

ヤチヨは、技術・製品の競争力、事業、人材でトップランナーとなり、社会からその存在を認められ、期待される企業を目指しています。購買部門では競争力が高く魅力ある部品・材料の調達を進めるとともに、取引にあたり「購買理念」、「購買原則」を定め、取引先との信頼関係を常に強化していきます。

購買理念

良いものをタイミングよく適正な価格で、
永続的に進化を続ける、競争力ある調達を行う

購買原則

1. **取引先の尊重と相互信頼**
   取引先の主体性を尊重し、対等な立場で取引を行います。
2. **自由でチャレンジする調達**
   魅力ある製品を供給する取引先と積極的に取引を行います。
3. **オープンで健全な調達**
   「ヤチヨ購買行動規範」を定め、オープンで健全な取引を行います。
4. **環境展開と法令遵守**
   サステナビリティに対し積極的に対応していきます。
   〈環境対応、紛争鉱物への対応、法令遵守、BCP、反社会的勢力、安全・品質〉

ガイドラインの策定

ヤチヨは、サステナビリティに対する考え方を取引先と共有し、積極的に対応するための「Yachiyo取引先サステナビリティガイドライン」を発行しています。このガイドラインを通じて、安全・品質、人権労働、環境、コンプライアンスなど問題事象の未然防止に努めています。

適時・適切な情報の開示

透明性の高い企業であり続けるために、株主・投資家の皆さまに適切な情報開示を進め、積極的なコミュニケーションを図ることが重要であると考えています。

定期的な決算説明会の開催やその説明資料の企業サイトへの公開などに加え、株主さまや機関・個人投資家の皆さまとの個別ミーティングなども随時行っています。

2018年

4月



4月1日
企業サイトリニューアル

5月

5月10日
通期決算説明会開催・
説明資料を企業サイトへ公開



6月

5月29日
招集通知（株主通信）発行



6月26日
第65回定時株主総会開催・説明資料を企業サイトへ公開
事業方針説明会開催・説明資料を企業サイトへ公開
製品展示





7月

8月

9月



9月28日
環境報告書発行

10月



10月19日
アニュアルレポート発行

11月

11月5日
第２四半期決算説明会開催・
説明資料を企業サイトへ公開



12月

11月29日
株主通信発行



12月12日
個人投資家向け会社説明会
（SMBC日興証券埼玉）



2019年

1月

2月

3月

人材

職場環境

職場でのコミュニケーション

ともに働く一人ひとりが常にお互いを信頼し合える職場環境を形成し、調和のとれた働きができるよう、職場での円滑なコミュニケーションに取り組んでいます。

人権の尊重

強制労働や児童労働などの人権侵害を一切行わず、人権を尊重する誠実で公平な企業であり続けます。

他のアソシエイトを尊重し誠実で公平な態度で接するとともに、職場におけるあらゆる形態のハラスメントや不当な差別的言動を一切行いません。

多様性の尊重

個人の持つさまざまな価値観や個性の違いを尊重し、育み、多様な人材が持てる力を十分に発揮できる職場環境の形成に取り組んでいます。

その取り組みの一つであるYVAP活動（被災地域の復興支援、各事業所近隣の福祉施設の支援など）では、その場で自分のできること、するべきことを考えて行動します。そこから活動者が体験し、学び、感じることは人間形成を促し、「人間尊重」「顧客第一」を2本柱とする企業理念の実践にもつながると考えています。

ワークライフバランス

仕事と子育ての両立に向け、各種制度の見直しに取り組んでいます。

- **フレックス勤務：** 月間勤務時間の中で、1日4時間以上の勤務で出退社ができます。
- **半日有給休暇：** 年間3日分（6回）までを上限に半日単位の有給休暇を取得可能にしました※。
- **有給休暇：** 前年度から繰り越された有給休暇（最大20日）において本年度内の100%取得を継続しています。
- **看護休暇：** 小学校5年生未満の子どもの看護を理由として、一人に対し最大5日、二人以上の場合10日の有給休暇を取得可能にしました※。
- **介護休暇：** 要介護状態にある家族の介護その他の世話を理由として、一人に対し最大5日、二人以上の場合10日の（無給）休暇を取得できます。
- **ボランティア休暇：** ボランティア参加を理由として、最大5日の（有給）休暇を取得できます。

※2019年4月より適用







広島県呉市　平成30年7月豪雨復興支援 46名参加
実施期間：2018年8月31日～10月29日

ダイバーシティ

女性活躍推進

2016年4月に施行された「女性活躍推進法」に基づき、女性の活躍推進におけるヤチヨの事業主行動計画を策定しています。

「女性活躍推進法」に基づく行動計画

ヤチヨは、組織の力を最大限、継続的に発揮するために、ダイバーシティ推進の一環として男女を問わず各人の能力や個性を組織全体で高めていきます。

1. **期間**
   2016年4月1日～2019年3月31日
2. **当社の課題**
   採用した従業員に占める女性従業員の割合が低い
3. **目標**
   女性従業員の採用率を10％以上とする
4. **取り組み内容と実施期間**
   2019年4月～ 女性の採用を強化
   - リクルートサイトに各職場で活躍している女性従業員を掲載する
   - 採用イベントへ積極的に在籍女性従業員を参加させる
   - 求職者に向けてヤチヨにおける女性活躍躍進について積極的な広報活動を行う

2016年度から、女性採用目標10%に向けて、内容3項目に取り組んできました。初年度は、目標には至らなかったものの、翌年、翌々年と目標以上の成果を得ることができました。新たな3カ年（2019年4月1日～）においても、女性従業員の採用率10%の維持向上に向け、継続的な採用活動に取り組んでいきます。

●過去3年間の女性採用実績

2016 年度	9%
2017 年度	11%
2018 年度	16%

次世代育成支援推進（2017年4月1日～2020年3月31日）

従業員が仕事と子育てを両立し、安心して働くことのできる環境を作ることによって、従業員がその能力を十分に発揮できるよう行動計画を策定しています。

目　標

1. 各種制度の積極的活用推進
2. 男性の育児休業取得および育児短時間勤務制度利用者を2名以上
3. ハラスメントの撲滅推進
4. 高齢者・児童福祉など、従業員のボランティア活動への参画支援

実施状況

仕事と子育ての両立に向けた各種社内規則の改定

1. **半日有給休暇**
   - 年間3日分（6回）までを上限に半日単位の有給休暇を取得可能に※
2. **育児のための各種規定の適用範囲拡大**
   - 育児のための時間外労働の免除
   - 育児のための時間外労働の制限
   - 育児のための深夜残業の制限
   - 育児のための短時間勤務

   いずれも「小学校就学の始期に達するまでの子を養育する従業員」から「小学校5年生の始期に達するまでの子を養育する従業員」へ適用を拡大※

   ※2019年4月より適用
3. **懲戒事由の追加**
   セクシュアルハラスメントに加え、マタニティハラスメント、パワーハラスメントなど、他者の尊厳を著しく傷つけるハラスメント行為を懲戒事由に明記

セクハラ相談窓口の設置

- 専用Eメールアドレスおよび電話番号を設置
- 行動規範を従業員教育にて周知

ボランティア活動の啓発およびボランティア休暇の取得推進

- ボランティア休暇取得 2018年度実績 143日

障がい者雇用

ヤチヨは、埼玉県障がい者雇用優良事業所に認定されています。(認証第87号 2018年3月13日付認定)

ヤチヨは持続的な発展に向けて、基本理念である「人間尊重」に基づき、一人ひとりを違いのある個性として認め合い尊重し、多様な人材が持てる力を存分に発揮することで、企業としての総合力を高めていきます。

●過去3年間の障がい者雇用実績

2016 年度	2.56%	(2.00%)
2017 年度	2.80%	(2.00%)
2018 年度	2.28%	(2.20%)

※( )内、法定雇用率

雇用継続への取り組みなど

各事業所に、障害者職業生活相談員を配置しています。

- 支援センターの職員と連携し、当該従業員と定期的な個別面談を実施し、フォローアップに努めています。
- 障がい者合同就職説明会などで求人活動を行い、採用時には求職者に対して職場見学を実施し、求職者との間でマッチングを図っています。配属時には本人の適性を十分考慮し、働きやすい環境づくりに努めています。また、フレックスタイム制の導入により、本人の体調に合わせた働き方ができる仕組みを整えています。
- 障がい者スポーツへの積極的な支援における取り組みとして、パラアスリートを雇用し競技活動を支援するとともに、陸上競技用車いすの製造を行っています。
- 2013年から開始したYVAP(ヤチヨ ボランティア アシスト プログラム)活動により、障がい者施設への支援をはじめとする地域に根差したボランティア活動も積極的に行っています。

多様な働き方実践企業認定制度

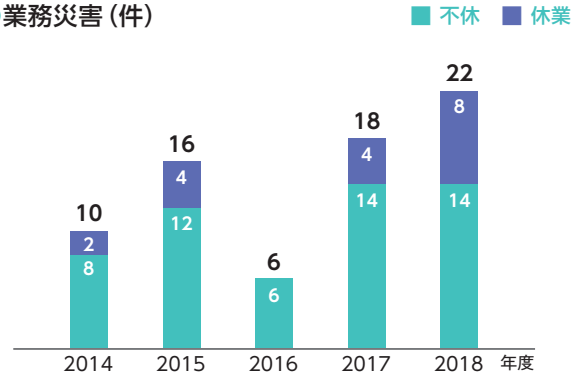
2013年12月11日付で埼玉県「多様な働き方実践企業認定制度」に「ゴールド」区分で認定され、**2018年10月1日付で「ゴールド+」**で認定を受けました。

ヤチヨは、仕事と子育ての両立を支援するため、多様な働き方を実践することで、男女ともいきいきと働き続けられる環境づくりを推進していきます。

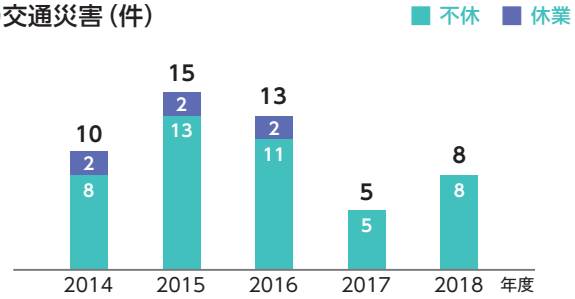
安全衛生

さまざまな取り組みを行っているものの、業務災害および交通災害の件数は減少していないのが実態であり、来年度も引き続き、「重点リスク管理」と捉え、全社で「安全衛生リスク」に取り組み、災害0を目指します。

●業務災害(件)



●交通災害(件)



地域社会

お客さまや社会の期待を上回る商品やサービスの提供をはじめ、企業活動を通じて、社会に貢献するよう努めます。また、企業市民として社会的責任を果たすため、社会活動に取り組みます。

地域に根差したボランティア活動

ヤチヨの目指す姿である「社会にその存在を認められ、期待される企業」となるためには、より地域に根差した継続的な活動が必要という考えのもと、2013年1月より各事業所近隣の福祉施設を支援する活動を行っています。



埼玉県狭山市　陸上競技部による小学校陸上教室
実施日：2019年2月14日



三重県鈴鹿市　養護施設における草刈り 6名参加
実施日：2018年8月25日



埼玉県狭山市　入間川クリーン活動 41名参加
実施日：2019年3月2日

工場見学

将来にわたって持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一環として、地域に根差したコミュニケーションを大切にしています。

地域の環境団体や工業会、学校などを受け入れ、環境に配慮した製品づくりを中心に理解していただけるよう努めています。



柏原工場　彩の国オープンファクトリー(彩の国工業団地連携協議会主催)の受け入れ
実施日：2018年10月19日

陸上競技用車いすを用いた出張授業

ヤチヨは障がい者スポーツの発展とカーボン技術の構築を目指して、CFRP※製の陸上競技用車いすの製造を行っています。地域の学校に訪問し、挑戦する姿勢やものづくりの喜びを伝え、学びの場を提供しています。

また、ヤチヨ所属のパラアスリート土田和歌子選手による講演会や出張授業も行っています。

※CFRP…炭素繊維強化プラスチック

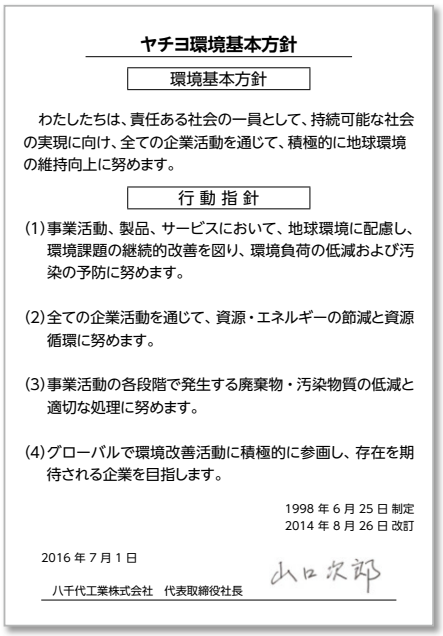


東京都文京区　土田和歌子選手(ヤチヨ所属)による小学校出張授業
実施日：2018年7月13日

環境マネジメント

ヤチヨ環境方針

ヤチヨは、下記の環境基本方針および行動指針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。



ヤチヨ環境基本方針

環境基本方針

わたしたちは、責任ある社会の一員として、持続可能な社会の実現に向け、全ての企業活動を通じて、積極的に地球環境の維持向上に努めます。

行 動 指 針

(1)事業活動、製品、サービスにおいて、地球環境に配慮し、環境課題の継続的改善を図り、環境負荷の低減および汚染の予防に努めます。

(2)全ての企業活動を通じて、資源・エネルギーの節減と資源循環に努めます。

(3)事業活動の各段階で発生する廃棄物・汚染物質の低減と適切な処理に努めます。

(4)グローバルで環境改善活動に積極的に参画し、存在を期待される企業を目指します。

1998 年 6 月 25 日 制定
2014 年 8 月 26 日 改訂

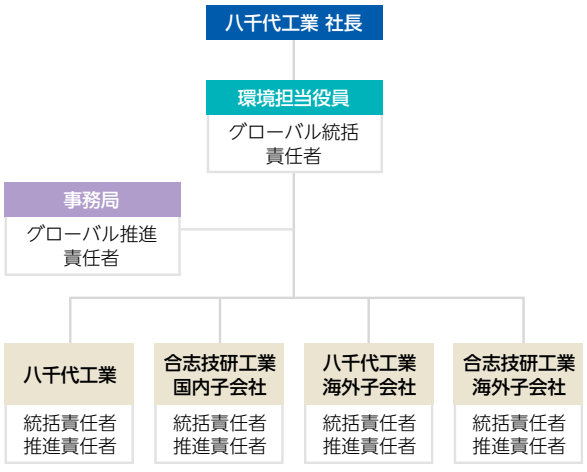
2016 年 7 月 1 日

八千代工業株式会社　代表取締役社長　山口次郎

環境マネジメント体制

グローバルヤチヨとして環境への取り組みを迅速なものとするため、環境担当役員および事務局との連携強化を目的とし、すべての事業所と直結の体制としています。

各事業所に統括責任者と推進責任者を配置し、海外事業所においては現地法人社長を統括責任者としています。



環境マネジメントシステム

環境活動においては、国際規格へのコミットメントが企業のCSRであるとの考えから、2017年度は新たに、海外子会社1社においてISO14001規格の認証を取得しました。

2018年12月
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー(米国)

ISO14001認証取得は、国内事業所2地区、国内子会社1社、海外子会社12社となりました。

八千代工業国内事業所の認証区分
柏原地区…本社、柏原工場、埼玉研究所
鈴鹿工場…鈴鹿工場、亀山事業所

ISO14001 認証取得状況

拠点名	取得年月
柏原地区 (本社、柏原工場、埼玉研究所)	1999年2月
合志技研工業株式会社	1999年3月
鈴鹿工場 (鈴鹿工場、亀山事業所)	2000年2月
サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド(タイ)	2000年11月
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (タイ)	2002年2月
エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド (米国)	2003年4月
八千代工業(中山)有限公司 (中国)	2006年12月
八千代工業(武漢)有限公司 (中国)	2009年3月
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド(ベトナム)	2009年11月
ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ(メキシコ)	2016年3月
ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ(ブラジル)	2016年6月
ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド(インド)	2016年7月
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (インドネシア)	2017年7月
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー (米国)	2018年12月

エコプロダクツ

環境規制対応 樹脂製燃料タンクの開発

世界で最も厳しいレベルの自動車排出ガス規制であるLEVⅢ※などにも対応しています。樹脂製燃料タンクを主力製品に持つヤチヨは、いち早くこれらの規制に対応する燃料タンクを製品化するために、材料の割合やタンク素材の開発に取り組みました。

トップクラスの安全性、そして、環境への配慮の両面において商品力を向上させています。

※LEVⅢ…LEVは低排出ガス車（Low Emission Vehicle）を指し、現在、米国における最高レベル（Ⅲ）の排出ガス規制



3Rへの取り組み

Reduce（リデュース）

●樹脂製燃料タンク

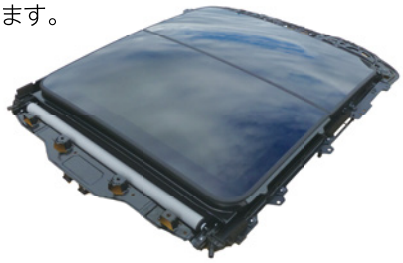
自動車の部品として、さらなる軽量化を推進しています。高剛性材を適用することにより、タンク本体の剛性、耐圧性、耐衝撃性などを維持し、限界まで肉厚を薄くしました。それにより、従来よりもおよそ15%の軽量化を実現しています。

今後もさらなる軽量化を目指し、薄肉化のほか、新たな部品構成方法などの検討を進めています。

●サンルーフ

近年、自動車は地球環境保護から燃費向上が求められており、それには軽量化を図る必要があります。ヤチヨのサンルーフは従来品に対し、大幅な軽量化を実現しました。

また、車内の快適性向上のため、薄型化による車内空間の確保、低作動音による静しゅく性などに配慮した製品を生産しています。



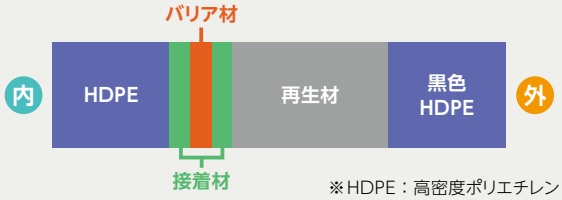
Recycle（リサイクル）

●樹脂製燃料タンク

燃料タンク成形時に発生するバリ（不要部分）を設備に取り込み、粉砕精製し再生材（リサイクル材）として燃料タンクの素材に使用することで、歩留まりの向上も実現しています。



4種6層 樹脂製燃料タンクの断面



※HDPE：高密度ポリエチレン

●樹脂製燃料タンク

ガス漏れ検査装置に使用しているヘリウムガスを、検査完了後、回収精製装置で回収し、繰り返し利用することにより、環境影響の最小化に取り組んでいます。

気候変動への取り組み

近年、地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、自社領域におけるエネルギー起源のCO_2排出量のみならず、非エネルギー起源の排出量、スコープ3に該当するその他の間接排出量においても把握することにより、温室効果ガスの低減に取り組んでいます。

2018年度 温室効果ガス排出量

GHGプロトコル		排出量(t-CO_2)
スコープ1	エネルギー起源	3,473
	非エネルギー起源	108
スコープ2	間接排出	12,892
スコープ1+スコープ2	合計	16,473
スコープ3	カテゴリー1の一部	3,848
	カテゴリー9	1,289

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

※スコープ1：非エネルギー起源の排出は、第一種特定製品（フロン法算定漏えい量）、第二種特定製品（カーエアコンガス充填時漏えい量）および工業用ドライアイス

※電力換算係数は、国内固定0.378t-CO_2を使用

※スコープ3：カテゴリー1は、サプライチェーン内における外作、構成品を対象として集計

<用語の説明>

GHGプロトコル　温室効果ガス（Greenhouse Gas）排出量の算定と報告の基準

スコープ　温室効果ガス排出内容の定義
- ●スコープ1（直接排出量）＝自社の工場、オフィス、車両など
- ●スコープ2（エネルギー起源間接排出量）＝電力など自社で消費したエネルギー
- ●スコープ3（その他の間接排出量）

カテゴリー　スコープ3を15項目＋その他（任意）に分けたもの

CO_2排出量 低減施策

事業環境の変化に影響されにくい削減管理として、施策によって低減したCO_2排出量を把握できるようにしています。

八千代工業 国内事業所を対象に、全施策を環境委員会で一元管理し、全社環境委員会開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を図っています。主に、エネルギー効率の向上として高効率の新設備への更新、およびロス削減として既存設備の改善を実施し、環境に対するマナーとして取り組む地道な施策も含め、55施策を展開しました。

管理項目	目標	実績
CO_2排出量 低減施策効果	150 t-CO_2/年	283 t-CO_2/年(55施策)

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

マテリアルフロー

事業活動（研究開発、営業、購買、製造、管理）全般における資源・エネルギーの投入量（Input）と排出量（Output）を把握し、事業活動に役立てています。

投入量（Input）

区分	項目	使用量
エネルギー	電力（買電）	34,108 MWh
	灯油	31 kL
	軽油	0 kL
	LPガス	16 t
	都市ガス	1,492 千m^2
	電力（太陽光）	0 MWh
水資源	地下水	0 m^3
	工業用水	20,426 m^3
	上水	52,424 m^3
化学物質	取扱量	208 t
原材料	鋼材	550 t
	樹脂材	8,023 t

事業活動

排出量（Output）

区分	項目	使用量
排出	CO_2	16,473 t-CO_2
	NOx	0.09 t
	SOx	0 t
	排水	36,445 m^3
化学物質	VOC	229 t
	PRTR対象物質	126 t
廃棄物原材料	産業廃棄物	1,251 t
	直接埋立処分	0 t
	社外リサイクル	1,251 t
	有価物	4,627 t

<用語の説明>

NOx　窒素酸化物

SOx　硫黄酸化物

VOC　Volatile Organic Compounds ＝揮発性有機化合物

PRTR　Pollutant Release and Transfer Register ＝化学物質排出移動量届出制度

2018年度 環境目標

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、全社方針として環境活動のグローバル展開を進めており、とりわけ気候変動（地球温暖化）、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷のさらなる低減に向けて取り組みを継続しています。

2018年度 環境実績

2018年度の環境実績は、下記の通りでした。

廃棄物量原単位の悪化は、グローバル調達部品の梱包材に使用されている木製パレットの廃棄量増加によるものです。

項目	目標	実績値	達成度
エネルギー起源CO_2総排出量※1	22,500 t-CO_2 1990年度比 25%減	**16,581 t-CO_2**	○
CO_2排出量 原単位 （付加価値額原単位）	2016年度比 2%減	**10.8%減**	○
VOC排出量 原単位※2 （塗装面積当たり原単位）	前年度比 1%減	**4.1%減**	○
水資源使用料 原単位※2 （付加価値額原単位）	前年度比 1%減	**18.5%減**	○
廃棄物量 原単位※2 （付加価値額原単位）	前年度比 1%減	**64.6%増**	✕
CO_2排出量 低減施策効果 （前年度総排出量 1.0%相当分削減）	150 t-CO_2	**283 t-CO_2**	○

達成度判定

○ = 95%以上

△ = 80%以上

✕ = 80%未満

2019年度 環境目標

2017年度から2019年度の中期3カ年環境目標を設定しました。2019年度の目標は右の通りとなります。

今後もヤチヨは、持続可能な社会の実現に向けて、環境活動を企業活動の中核課題とし、活動を強化していきます。

項目	目標
エネルギー起源CO_2総排出量※1	22,500 t-CO_2 1990年度比 25%減
CO_2排出量 原単位 （付加価値額原単位）	2016年度比 2%減
VOC排出量 原単位※2 （塗装面積当たり原単位）	前年度比 1%減
水資源使用料 原単位※2 （付加価値額原単位）	前年度比 1%減
廃棄物量 原単位※2 （付加価値額原単位）	前年度比 1%減
CO_2排出量 低減施策効果 （前年度総排出量 1.0%相当分削減）	150 t-CO_2

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

電力換算係数は、日本固定1MWh当たり0.378t-CO_2を使用

※1 CO_2総排出量は、業界団体（一般社団法人日本自動車工業会、一般社団法人日本自動車車体工業会）の公表値2020年目標28%削減（1990年比）に準じ、長期目標を設定して排出量管理を実施

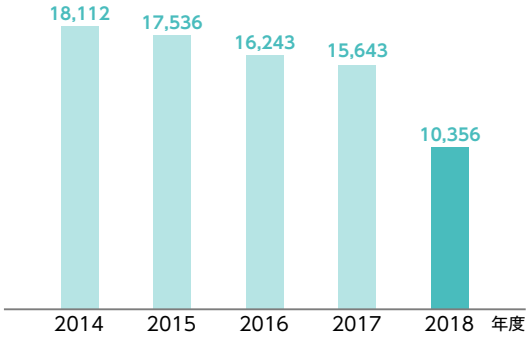
※2 VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、毎年、連続して低減していきたいという観点から、前年度比1%減を設定

省エネルギー

2018年度のエネルギー使用量は、原油換算値で10,356kLとなり、前年度比66.2%となりました。原単位は、対前年度比93.1%、5年度間平均原単位変化において96.2%となりました。

今後、省エネ法の努力目標達成に向け、省エネ活動をさらに強化していきます。

●原油換算値（kL）

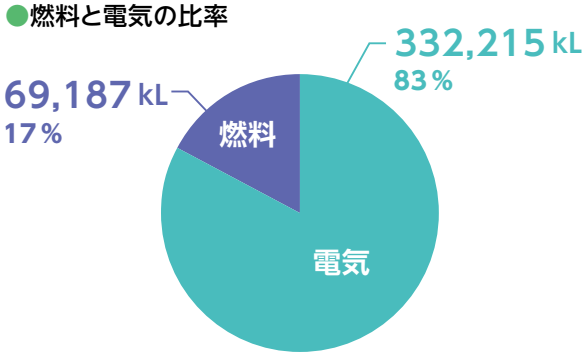


対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

※省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律）努力目標原単位改善率平均1%

※四日市製作所の2018年3月分以降のエネルギー使用量は、事業分割子会社化により集計対象外（省エネ法における法人単位の規制による）

●燃料と電気の比率



汚染防止対策

柏原工場、鈴鹿工場では、土壌および地下水の調査を行った結果、環境基準値を超えるテトラクロロエチレンが検出されたため、2004年から地下水揚水バリア井戸を設置し、浄化装置にて浄化を継続して行っています。1年に2回、浄化状況について測定を行い、市に報告を行っています。

オゾン層保護・地球温暖化への対策

第1種特定製品

ヤチヨでは、第1種特定製品の機器のリスト化、点検表の整備を行い、全事業所でフロン排出抑制法への対応を行っています。2018年度の算定漏えい量について、下表の通り報告義務はありませんでした。

冷媒ガス	漏えい量	GWP	CO_2換算
R22	7.0 kg	1,810	12.67 t-CO_2
R407A	20.5 kg	1,770	36.29 t-CO_2
R410A	27.5 kg	2,090	27.47 t-CO_2
算定漏えい量			106.43 t-CO_2

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

事業者は、第1種特定製品の簡易点検（1回/四半期）、一定規模以上の機器においては、有資格者による定期点検（1回/年または1回/3年）が義務化され、整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000t-CO_2（GWPによるCO_2換算）以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となる。

<用語の説明>

GWP | Global Warming Potential=CO_2を1とした場合の温暖化影響の強さを表す値

法規制への対応

環境関連の法規制順守状況

2018年度、環境関連の法令違反はありませんでした。

環境関連の法の執行状況

省エネ法における2016年度に制度化された事業者クラス分け評価制度において、2018年度はAクラス評価でした。クラス分けの判断基準となる2017年度定期報告の結果は、原単位対前年度比99.1%、5年度間平均原単位変化104.3%でした。

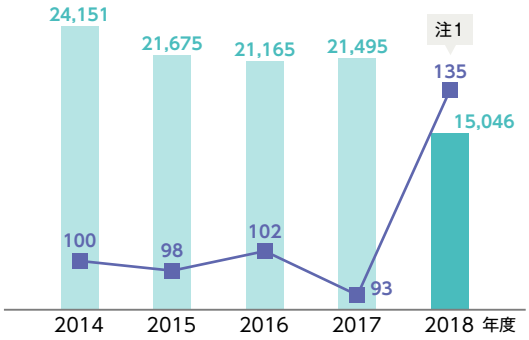
環境に関する苦情・トラブル

2018年度、地域などからの苦情はありませんでした。地域などから苦情を受けた場合、全社で情報共有を行い、同様の環境に関する苦情・トラブルの再発防止を図っています。

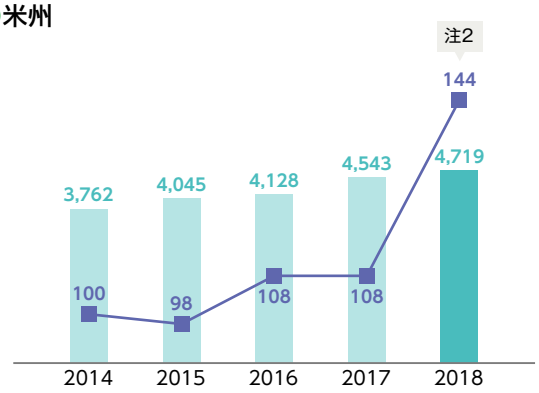
地域セグメントごとの環境データ推移

エネルギー投入量（kL）

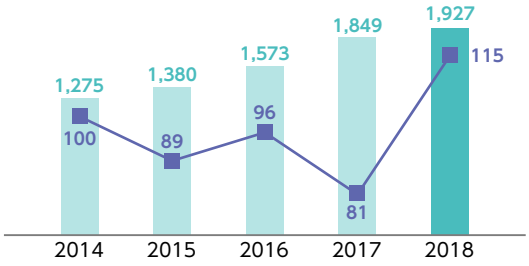
●日本



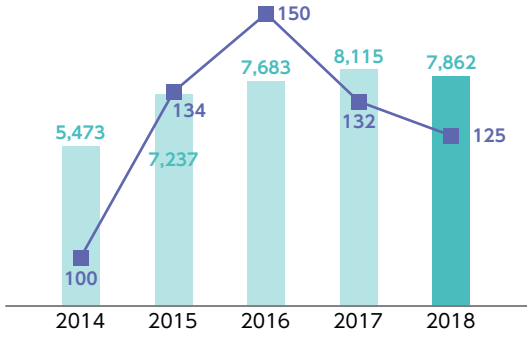
●米州



●中国

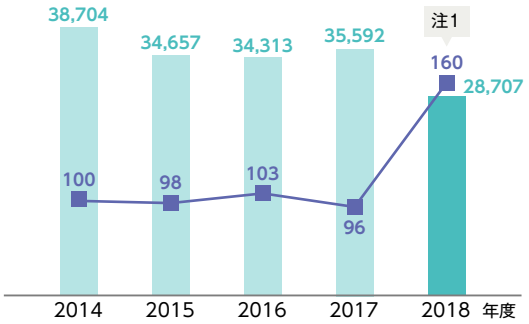


●アジア

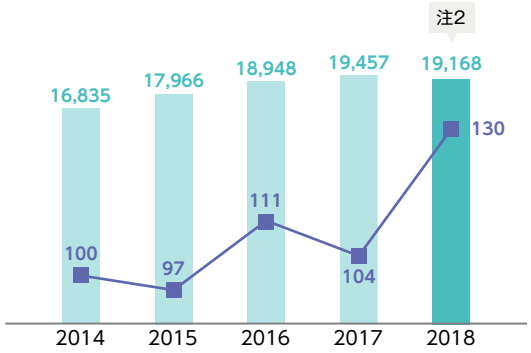


CO_2排出量（t-CO_2）

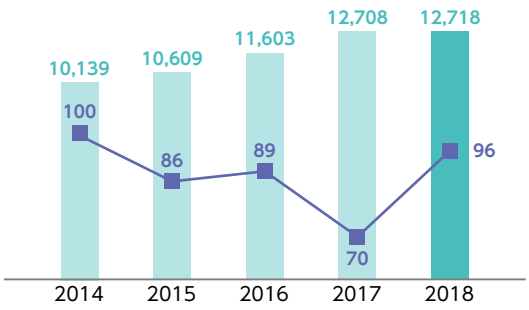
●日本



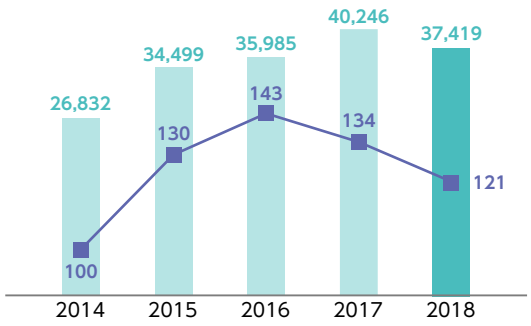
●米州



●中国



●アジア



注1 原単位指数の悪化は、主に完成車事業の譲渡に伴う売上減によるものです。
注2 原単位指数の悪化は、主に四輪部品の受注減少や、メキシコにおける水害による主要顧客の生産休止に伴う売上減によるものです。

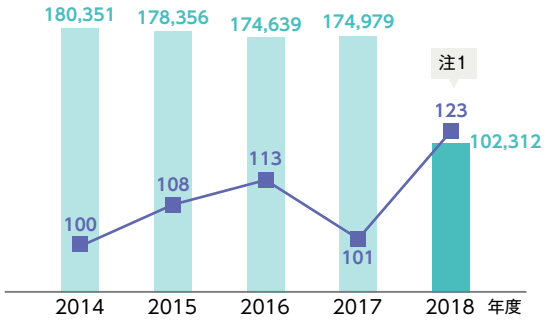
集計範囲は、すべての環境データにおいて右のとおりです。

凡例：■実績総量
　　2014年度基準の売上原単位指数

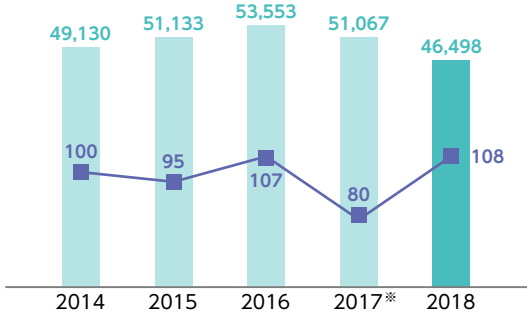
【日　本】四日市製作所※（～2017年度）、株式会社ワイジーテック※（～2014年度）、
株式会社合志テック（2016年度～）
【アジア】ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（2016年度～）
※四日市製作所（2018年3月～八千代工業四日市製作所株式会社）および株式会社ワイジーテックは、
それぞれ2018年4月、2016年1月に事業譲渡

水資源使用料（m³）

●日本

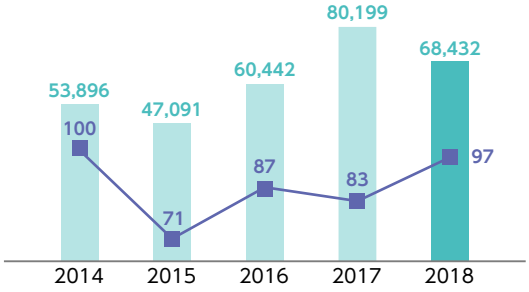


●米州

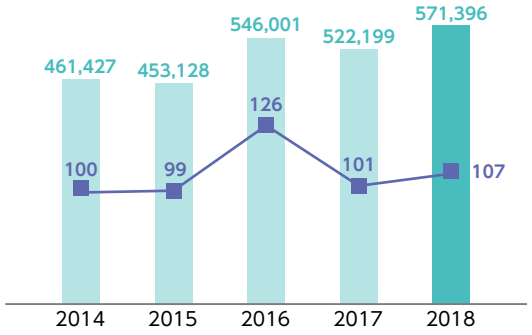


※ 集計ミスにより訂正しています。

●中国

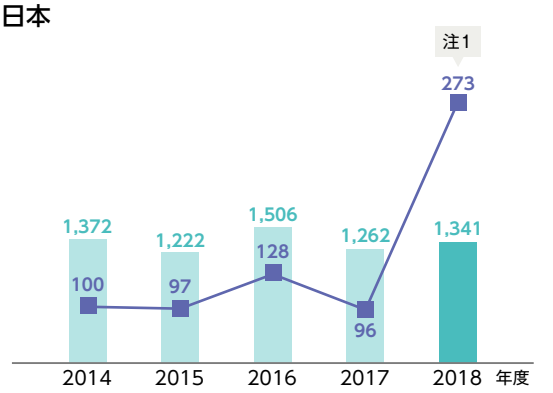


●アジア

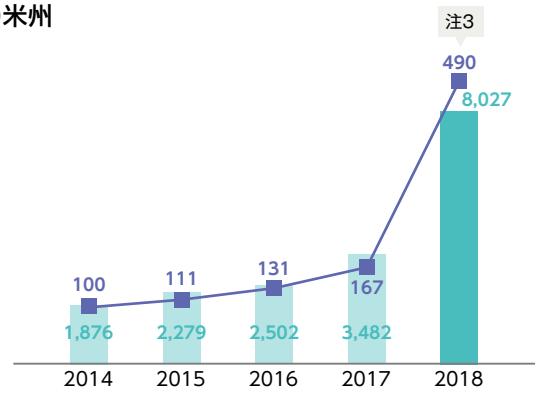


廃棄物量（t）

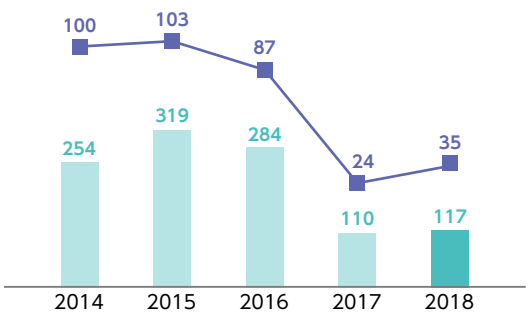
●日本



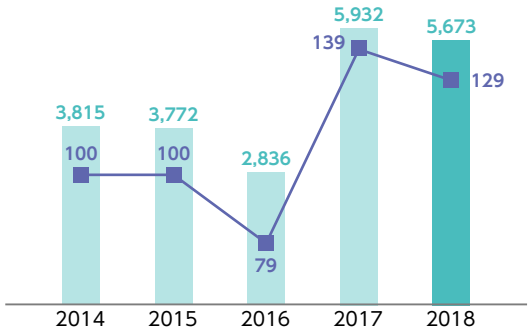
●米州



●中国



●アジア



注3　原単位指数の悪化は、主に四輪部品の受注減少や、メキシコにおける水害による主要顧客の生産休止に伴う売上減、
実績総量の悪化は、ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）における生産トラブルによるスクラップや産業廃棄物処理の増加によるものです。

事業所ごとのエネルギーと廃棄物量

日本

●本社および柏原工場

エネルギー資源	
電気	13,248 MWh
プロパンガス	11,766 kg
都市ガス	356 千m³
水	25,479 m³

廃棄物	
処分量	447 t

正規従業員：384名
臨時従業員：118名

●鈴鹿工場

エネルギー資源	
電気	5,223 MWh
都市ガス	718 千m³
水	22,117 m³

廃棄物	
処分量	131 t

正規従業員：69名
臨時従業員：19名

●亀山事業所

エネルギー資源	
電気	9,038 MWh
都市ガス	418 千m³
水	14,672 m³

廃棄物	
処分量	181 t

正規従業員：134名
臨時従業員：24名

●合志技研工業株式会社

エネルギー資源	
電気	5,303 MWh
プロパンガス	180,126 kg
都市ガス	360 千m³
灯油	271 kL
ガソリン	8 kL
軽油	3 kL
A重油	717 kL
水	19,791 m³

廃棄物	
処分量	396 t

正規従業員：299名
臨時従業員：11名

●栃木研究所

エネルギー資源	
電気	4,149 MWh
プロパンガス	3,658 kg
灯油	31 kL
水	6,452 m³

廃棄物	
処分量	93 t

正規従業員：136名
臨時従業員：60名

●埼玉研究所

エネルギー資源	
電気	2,450 MWh
プロパンガス	480 kg
水	5,130 m³

廃棄物	
処分量	7 t

正規従業員：152名
臨時従業員：21名

●株式会社ウエムラテック

エネルギー資源	
電気	3,772 MWh
プロパンガス	16,645 kg
灯油	1 kL
ガソリン	6 kL
軽油	2 kL
水	4,379 m³

廃棄物	
処分量	45 t

正規従業員：110名
臨時従業員：93名

●株式会社合志テック

エネルギー資源	
電気	1,648 MWh
プロパンガス	111 kg
ガソリン	8 kL
軽油	22 kL
灯油	20 kL
水	6,132 m³

廃棄物	
処分量	41 t

正規従業員：92名
臨時従業員：66名

米州

●ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）

エネルギー資源	
電気	1,244 MWh
天然ガス	25 千m³
水	603 m³

廃棄物	
処分量	10 t

正規従業員：58名
臨時従業員：0名

●ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）

エネルギー資源	
電気	22,847 MWh
プロパンガス	66,879 kg
天然ガス	90 千m³
軽油	18 kL
水	11,826 m³

廃棄物	
処分量	5,388 t

正規従業員：205名
臨時従業員：32名

●エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）

エネルギー資源	
電気	4,017 MWh
天然ガス	634 千m³
軽油	0.7 kL
水	14,294 m³

廃棄物	
処分量	829 t

正規従業員：312名
臨時従業員：47名

●ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）

エネルギー資源	
電気	9,324 MWh
軽油	0.5 kL
水	5,063 m³

廃棄物	
処分量	1,061 t

正規従業員：143名
臨時従業員：0名

●ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ(メキシコ)

エネルギー資源	
電気	2,588 MWh
プロパンガス	2 kg
軽油	6 kL
水	11,826 m³

廃棄物	
処分量	436 t

正規従業員：160名
臨時従業員：　0名

●ヤチヨド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ(ブラジル)

エネルギー資源	
電気	2,622 MWh
プロパンガス	2,287 kg
軽油	1 kL
水	2,588 m³

廃棄物	
処分量	303 t

正規従業員：44名
臨時従業員：　0名

中国

●八千代工業(中山)有限公司(中国)

エネルギー資源	
電気	9,351 MWh
天然ガス	17 千m³
軽油	21 kL
水	36,463 m³

廃棄物	
処分量	26 t

正規従業員：426名
臨時従業員：　0名

●八千代工業(武漢)有限公司(中国)

エネルギー資源	
電気	10,660 MWh
天然ガス	19 千m³
ガソリン	22 kL
軽油	1 kL
水	31,969 m³

廃棄物	
処分量	91 t

正規従業員：704名
臨時従業員：　13名

アジア

●サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド(タイ)

エネルギー資源	
電気	12,722 MWh
プロパンガス	203,370 kg
水	113,748 m³

廃棄物	
処分量	759 t

正規従業員：389名
臨時従業員：　0名

●ヤチヨ インディア マニュファクチュアリングプライベート リミテッド(インド)

エネルギー資源	
電気	1,851 MWh
軽油	0.5 kL
水	4,229 m³

廃棄物	
処分量	30 t

正規従業員：41名
臨時従業員：29名

●ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア(インドネシア)

エネルギー資源	
電気	2,923 MWh
ガソリン	24 kL
軽油	62 kL
水	5,523 m³

廃棄物	
処分量	37 t

正規従業員：57名
臨時従業員：　0名

●サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド(タイ)

エネルギー資源	
電気	19,560 MWh
プロパンガス	13,632 kg
灯油	17 kL
ガソリン	51 kL
軽油	1 kL
水	224,350 m³

廃棄物	
処分量	1,322 t

正規従業員：885名
臨時従業員：391名

●ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド(ベトナム)

エネルギー資源	
電気	21,191 MWh
プロパンガス	497,797 kg
ガソリン	43 kL
軽油	51 kL
水	140,802 m³

廃棄物	
処分量	1,890 t

正規従業員：1,342名
臨時従業員：　72名

●ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド(フィリピン)

エネルギー資源	
電気	2,959 MWh
プロパンガス	96,731 kg
ガソリン	11 kL
軽油	17 kL
重油	5 kL
水	79,939 m³

廃棄物	
処分量	889 t

正規従業員：388名
臨時従業員：253名

●ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド(インド)

エネルギー資源	
電気	3,569 MWh
軽油	641 kL
水	2,805 m³

廃棄物	
処分量	736 t

正規従業員：293名
臨時従業員：276名

※ 正規および臨時従業員は、2019年3月末現在のものです。

YACHIYO 社会・環境報告書 2019

編集

役員室　CSR担当　北村 哲也
総務部　総務ブロック　倉田 周市
池田 雅史
経営戦略室　広報ブロック　奥田 達之

お問い合わせ

八千代工業株式会社
管理本部　総務部
〒350-1335　埼玉県狭山市柏原393
TEL：04-2955-1211（代表）

発行　八千代工業株式会社
発行責任者　総務部長　田中 和弘
発行日　2019年9月

UD FONT